

特定非営利活動法人里山みらい

設立趣旨書

1 趣旨

「ほりゃ手間がかかるんよ。ほなけんど、食べる人のことを思うと手は抜けれん。損な性分よ…」と微笑みながら、何万と並ぶ梅干しのヘソを一粒ずつ取り除き、天日干しする梅農家のじいちゃん。

じいちゃんが暮らすここ神山町は、四国霊場 88ヶ所の 12 番札所である焼山寺を有し、梅とすだちの一大産地として知られています。しかし、じいちゃんの家は孫が継いでいるものの多くの農家に後継者はいません。梅やすだち畑を受け継いできたじいちゃんは、もう自分だけでは世話が難しいとこぼします。そんな状況はお遍路さんでも同じ。お遍路さんへのお接待を続けているばあちゃんたちは自分たちの代でお接待文化は終わってしまうと寂しく語ります。

里山は自然と人が共存する社会であり、豊かな自然の恵みによって人が命をつないできた循環型社会です。ところが、戦後の経済成長をきっかけに里山を守るべき人が減っていき、遠い昔から代々大切に受け継いできた自然環境や伝統文化など、人にとってもっとも尊いものが急速に失われようとしています。

そこで、私たちはこの大切な里山を未来に残したいという思いから活動を開始しました。幸い、ここ神山町は全国屈指の高速通信環境が整い、都会からの企業や移住者を多く受け入れています。集まった多様な人材により、過疎地域が活性化し始め、未来に希望を持つ住民も増えてきました。そして地域住民、移住者、企業、行政と連携して、都会の人たちにこの状況を知ってもらい、ともに暮らしを支えあう関係を築くことによって、もともと日本にあった持続可能な循環型社会を取り戻すことができると考えています。そのために、私たちは特定非営利活動法人を設立することとしました。

里山と都会の新しいつながりを創る活動、里山の新しい価値を創造する活動、里山の自然環境や伝統文化を伝え継ぐ活動、里山の暮らしに対する理解と人材育成を行う活動などをおして、じいちゃんばあちゃんたちが代々守ってきた里山を次世代に受け継ぎ、田舎に住む人と都会に住む人がともに支えあえる、新しい社会を創造していきたいと思えます。

2 申請に至るまでの経過

平成 26 年 5 月～6 月	神山ルビイ七人展開催
平成 26 年 8 月	里山みらい創造会議を設立
平成 26 年 9 月	東京すだち遍路実施
平成 27 年 1 月	特定非営利活動法人 里山みらい設立総会の開催